

開催期:令和3年6月2日 (書面会議)

## 1、郵送数

委員:6名

蛭田会長、中野副会長、森田委員、今井委員、江田委員

## 2、内容

・令和3年度「学校経営計画及び学校評価」について

## 3、ご意見

<令和3年度学校経営計画について>

①承認の賛否(委員6名)

→ 承認する6名 承認しない0名

上記のように、「令和3年度 学校経営計画及び学校評価」は承認されました。

### ②ご質問

- ・部活動の活性化について、具体的に聞かせていただきたい。
- ・「かわち野今後検討PT」の組織や目的等を教えて下さい。今、どんなことが検討課題になっているのでしょうか。
- ・支援教育コーディネーターとは特別支援教育関係のことを担当されているのでしょうか。障がいの有無に関わらないことと思いますが、どのような生徒が対象で、どんなことをされているのでしょうか。また、どんな先生が担当されていますか。
- ・With コロナの対策については記入しなくて良いのでしょうか。
- ・オンライン授業は伝える側(先生)のスキルが重要になります。具体的なスキルアップへの取り組みはありますか。

### ③ご意見

- ・教育目的は、どの生徒にも自己肯定感、有能感を育むことであると信じています。「自分のいいところ探し」をどのようにさせるか。それができる授業であってほしいと常々思っています。そのためにも、特に教職経験の少ない教員の授業力の向上が喫緊の課題ではないでしょうか。校内授業研究会の充実をお願いします。
- ・「言葉の力」が弱い昨今の子どもたちにとって、ソーシャルスキルは社会で健全に生きていくためには欠かすことのできない能力だと思います。他校も実践している演劇的手法を使ったコミュニケーション力の育成など、様々な手法がありますので、ぜひ、研修等を活用して、指導にフィードバックしていただければと思います。加えてキャリア教育の充実もお願いします。
- ・「頑張った生徒を表彰」というのは大事なことだと思います。アンテナを張りめぐらし、小さなことからたくさんほめてあげてください。
- ・授業研修で「他校及び外部の公開授業等への参加」というのはとても良いことだと思います。私は中学校教員ですが、小学校の先生方の授業に感心させられることが多いと思っています。また、幼稚園の先生もすごいです。校種の枠を超えて出かけられることをお勧めします。高校の先生が見に来てくれるのは、それらの学校園の先生方にとっても嬉しいことです。
- ・オンライン授業とハイブリッド授業など、コロナにも負けない強い学校体制を組み、それをメッセージとして地域・保護者・特に中学生に伝えて志願者増加に繋げてください。
- ・豊かな心の育成は、個々によって違います。先生方の豊かな心のイメージを持って共育してください。
- ・学校からのお手紙で雨の日の登校時、カッパを着用するとのことでしたが、テスト初日(5/19 水)午前中、鴻池新

田駅前の銀行ですれ違い時にぶつかりそうになりました。生徒さんの方は傘で前が見えなくて、大変危ない状況でした。なんでもペナルティを与えるのは良くないかもしれませんが、自分たちだけではなくて、他者を巻き込む可能性もあるため、今一度、徹底していただけたらと思います。

令和3年度 第1回大阪府立かわち野高等学校学校運営協議会 Q&A

Q&A	協議委員様からの質問項目と事務局12名からの回答
Q1	・部活動の活性化について、具体的に聞かせていただきたい。
A	・新入生に対する「新入生歓迎会」での各部活のパフォーマンス向上。 ・体験入部期間を延長。 ・本当は1年生全員どこかの部活に所属させたいところだが、本校生徒の気質に馴染まない。
A	・コロナ禍の影響で入部の機会を逃した生徒も多く、また、活動自粛期間が長かったため、モチベーションを保たせることが困難になっている。 ・可能な範囲で他校との交流の機会を増やしたり、卒業生などにも協力を依頼したりして少ない部員数でも楽しめる機会を作る必要がある。
A	・女子の割合が男子よりも顕著に増えてきているため、女子サッカー選手を募集し、少人数で練習を開始した。 ・クラブの加入率が低いので、生徒が部活動日にアルバイトに行くことも認めていかないと人が増えない。
Q2	・「かわち野今後検討 PT」の組織や目的等を教えて下さい。今、どんなことが検討課題になっているのでしょうか。
A	・生徒獲得のための作戦会議。(学校説明会の運営、パンフレット検討など) ・カリキュラム編成。
A	・定員割れに伴う加配減に対して、具体的に業務のスリム化を全面的に見直すこと。
A	・分掌の形態、内容の検討。
Q3	・支援教育コーディネーターとは特別支援教育関係のことを担当されているのでしょうか。障がいの有無に関わらないことと思いますが、どのような生徒が対象で、どんなことをされているのでしょうか。また、どんな先生が担当されていますか。
A	・学年団の教員で支援委員会に所属する者で、担任会や学年の授業担当教員から本人の特性を考慮して学習上の課題を抱える生徒情報を吸い上げ、支援委員会と結ぶ役割。
A	・身体的・発達の課題だけでなく、心身の課題、環境の課題をもつ生徒などが広く対象になります。担任、学年、保健室、保護者と連携し、SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)、外部機関と協力をしながら、個別にどんな支援が必要かを調整し、まとめていく役割を担っています。現在は、首席が支援教育コーディネーターですが、各学年にも支援コーディネーターを置いて情報共有をしています。
Q4	・With コロナの対策については記入しなくて良いのでしょうか。
A	・今年度の追記はありませんが、今後影響が続くようであれば、次年度から検討していきます。
A	・現在、ワクチンを打っても感染予防対策を続けさせるために、手洗い、マスク着用、こまめな換気の指導を継続中です。(保健部)
Q5	・オンライン授業は伝える側(先生)のスキルが重要になります。具体的なスキルアップへの取り組みはありますか。

A	<p>・研修会を重ねる。</p> <p>・府からの指示で「3年計画」で実践していく。今年度については、まず一人一台端末の配布、Chromebook の取り扱い方を生徒に伝達できるよう研修会を持った。また Classroom というアプリを利用して、HR クラスでの連絡や各教科の授業の補助を行った。</p>
A	<p>・オンライン委員会の教員による校内研修を通じて、全体のスキルアップに努めている。 (本来は、府が専門の担当者を置くべきだと思う。)</p>
A	<p>・いまだオンライン授業を実施してはいるが、Google Classroom を活用し、学習の課題を提示し、クラブにおける連絡網として機能している。教員の伝えるスキルアップはオンライン授業を経験しながらスキルアップをはかる。</p>